
平成27年3月期第2四半期決算 ～今後の経営展望について～

平成26年11月7日

代表取締役社長

根岸 孝成

Yakult

平成27年3月期 第2四半期業績(連結)

(単位:百万円)

	実績 (うち、為替影響額)	前年比	計画対比 (5月13日発表)
売上高	180,498 (1,406)	104.5 %	99.4 %
営業利益	16,644 (446)	107.9 %	107.4 %
経常利益	20,736 (620)	107.9 %	106.3 %
四半期純利益	12,014 (494)	112.8 %	114.4 %

平成27年3月期 通期業績予想(連結)

(単位:百万円)

	通期予想	前年比
売上高	370,000	105.6 %
営業利益	34,500	107.7 %
経常利益	42,000	106.2 %
当期純利益	24,000	106.5 %

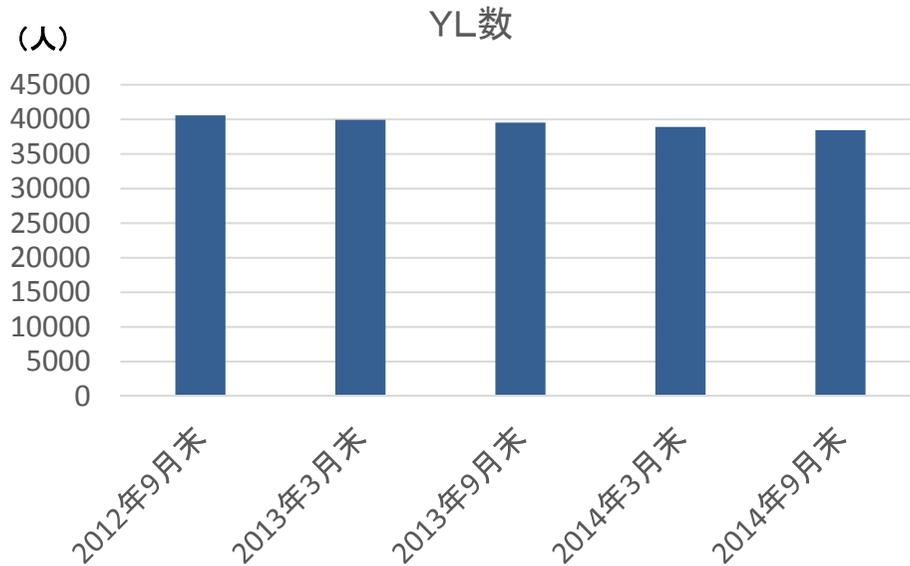
国内飲料食品事業（主要乳製品販売本数実績）



4-9月実績	-1.4%	-5.7%	+30.2%	+3.0%	-5.1%	-11.6%	-0.5%
年間計画 (5月発表)	+0.7%	-2.1%	+7.1%	+1.4%	-1.8%	+0.8%	+0.9%

- ・消費税増税により立ち上がりが弱かったが、月を追うに従い回復基調にあった。しかし、大雨、台風などの天候不順により販売実績は弱含みに推移した。
- ・宅配専用商品のヤクルト400シリーズは、+3%と継続して顧客創造がすすんでいる。

国内飲料食品事業（宅配チャネルの取り組み）



TVCM

Web情報



・訪問販売ビジネスモデルの持続的成長のために、ヤクルトレディの体制強化。

- 販売会社によるリクルート活動
- TVCMによるイメージアップ
- Webを通じた情報発信

国内飲料食品事業（店頭チャンネルの取り組み）



TVCM 菌未来レポート



・メディアと店頭を使った乳酸菌シロタ株のプロモーション活動。

テレビCM枠での「菌未来レポート」を通じて、乳酸菌シロタ株のエビデンスを説明

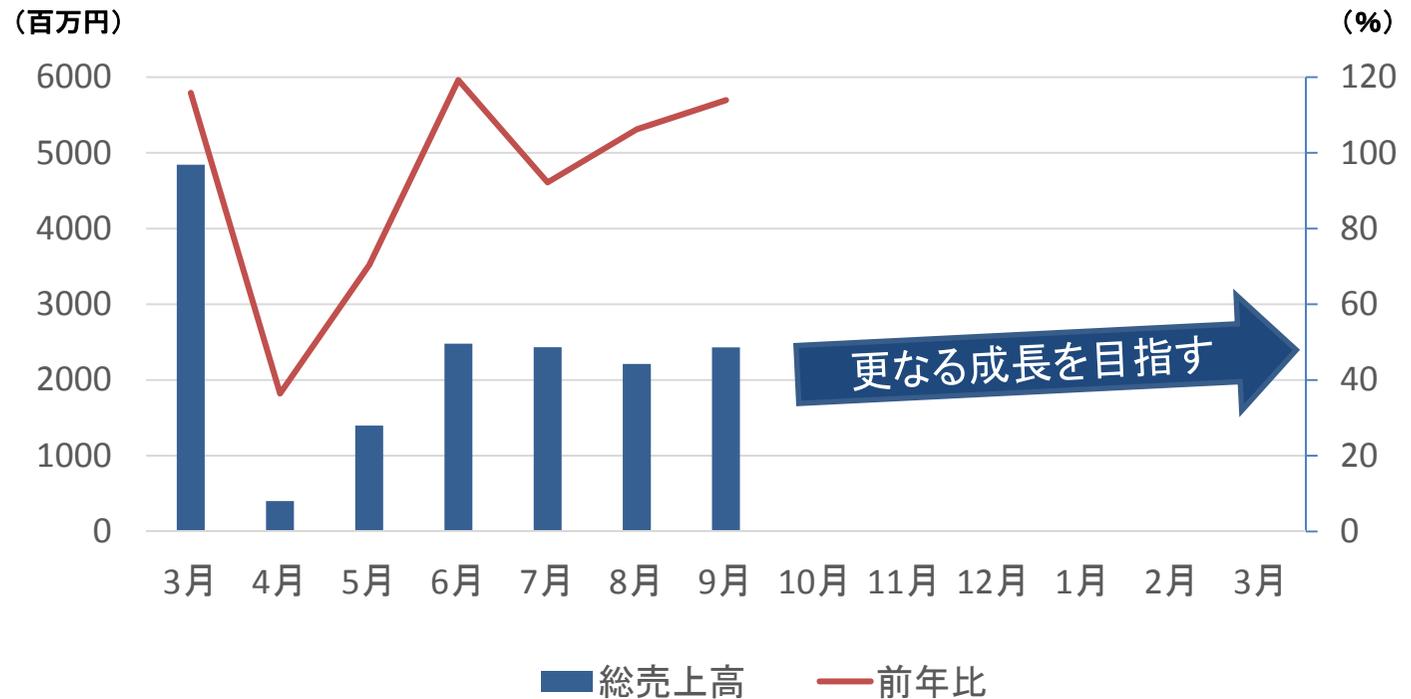
店頭での専任プロモーションスタッフによるサンプリングと乳酸菌シロタ株の価値訴求

国内飲料食品事業(商品戦略)



- ・乳酸菌シロタ株の価値訴求を通じて「ヤクルトシリーズ」の一層の市場深耕を狙う。
- ・ビフィズス菌BY株を使った、ミルミルブランドへの注力。
 - ・トレードマークの「水玉模様」をモチーフとし、当社独自のビフィズス菌を使用していることを、「大腸に生きてとどくビフィズス菌 BY株」のキャッチコピーで、よりわかりやすくしたデザイン
 - ・「ビフィズス菌 BY株」の写真をエンブレム化したマークをシュリンクフィルムに表示
 - ・「ミルミルS」のベースカラーを従来のピンクから黄色に変更し、男性でも手に取りやすいデザイン

医薬品事業(エルプラット販売実績)



- 3月は、薬価改定の発表に伴い、卸会社から通常月の約2倍の発注が生じた。この大量発注のリバウンドにより、4月・5月の売上げは低迷したものの、6月以降は通常に戻る。
- エルプラットの使用割合は、進行・再発がんが80%、アジュバントが20%、すい臓がんは9月までに1,000症例に投与され、徐々に売上げ貢献してきている。
9月以降は、保険適用となった胃がんでの使用も見込まれる。

医薬品事業(エルプラットの適応拡大)

エルプラットの胃がんに対する公知申請の流れ

- ・7月11日 第20回 医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議にて切除不能な進行・再発胃がんに対しての使用が承認される。
- ・9月 5日 第5回 薬事・食品衛生審議会 医薬品第二部会にて承認される。
以後、**エルプラットの保険償還が可能となる**
安全性情報提供
ヤクルト本社 : 医療従事者からの**要望に応じた情報提供**
日本胃癌学会 : 安全性に配慮した適性使用を推進することを
目的としたステートメントの掲載
- ・現在、エルプラットの胃癌に対する薬事承認申請中

医薬品事業(パイプライン他)

新薬パイプライン

薬品名	適応症	導入先	進捗状況	備考
①サーモドックス 開発記号: YHI-801	肝臓がん	セルシオン社	第Ⅲ相臨床試験	セルシオン社が欧米アジアでの新しい第Ⅲ相臨床試験を実施中
②ペリフォシン 開発記号: YHI-1003	神経芽腫 婦人科がん	エテルナゼンタリス社	第Ⅱ相臨床試験	日本で神経芽腫に対する第Ⅰ相臨床試験を実施中 日本で婦人科がんに対する第Ⅱ相臨床試験を実施中
③レスミノスタット 開発記号: YHI-1001	肝臓がん 大腸がん 肺がん	4SC社	第Ⅱ相臨床試験	日本で固形がんに対する第Ⅰ相臨床試験終了 肝細胞がんを対象とした国際第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験を実施中 肺がんを対象とした国内第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験を実施中
④LIV-2008	固形がん	リブテック社	前臨床	第Ⅰ相臨床試験開始に向け、前臨床試験を実施中

バイオ後続品

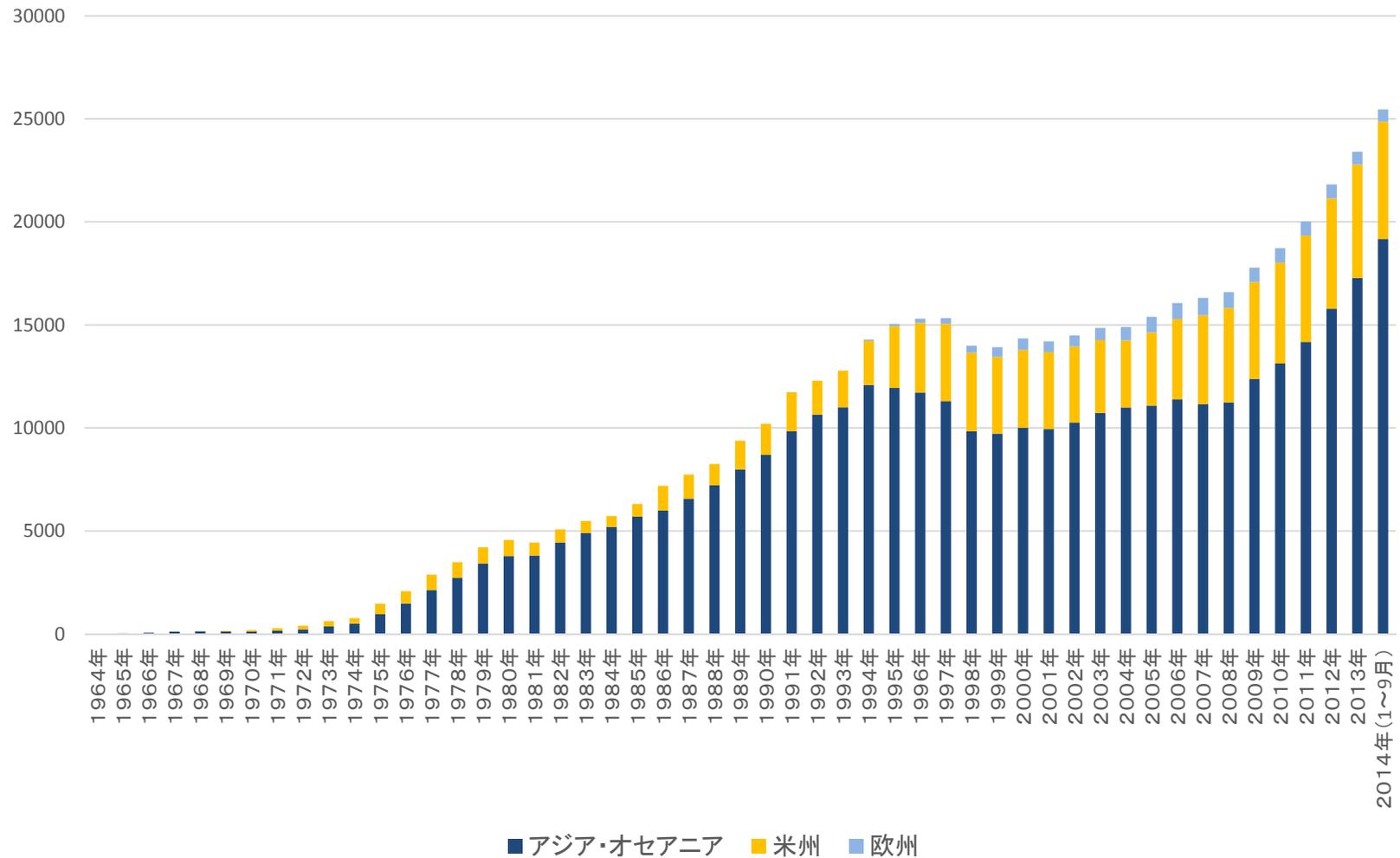
当社は2013年3月6日に、UMNファーマおよびアピとの間で、がん領域の複数抗体バイオシミラーの研究開発及び商業化を共同で実施することおよびその基本的事項について合意した。

ジェネリック

ゲムシタビン、レボホリナート、シスプラチンの後発品についてシェアNo.1を維持。

国際事業(販売実績の推移)

(千本/日)



国際事業(中国1)

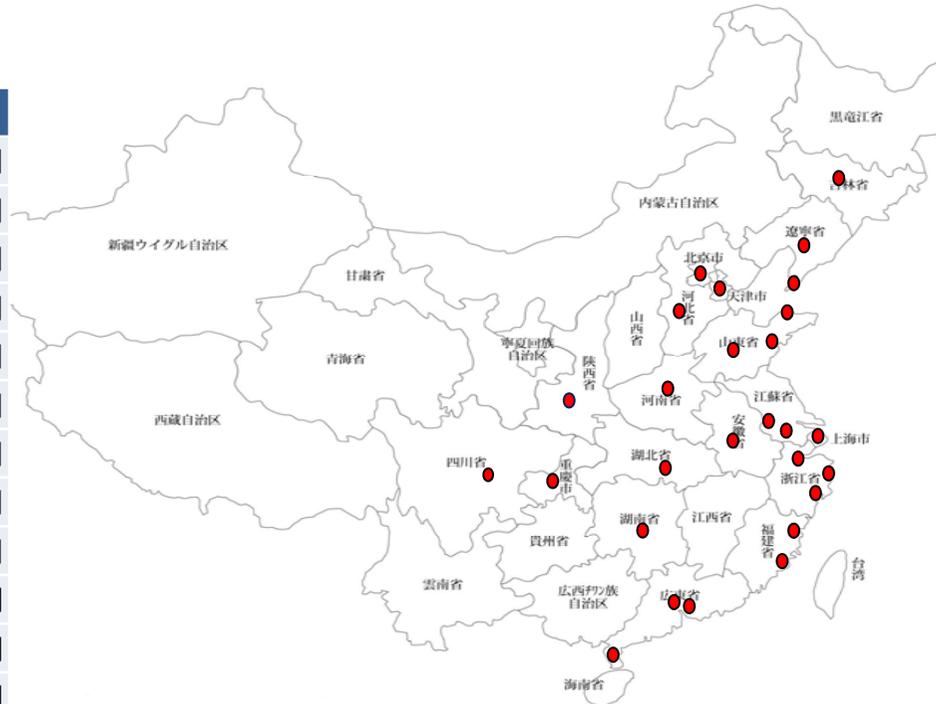
無錫工場完成予想図



	広州工場	広州第2工場	上海工場	天津工場		無錫工場	中国合計
				第1工場棟	第2工場棟		
生産開始	2002年6月	2014年4月	2006年8月	2011年8月	2014年6月	2015年6月 予定	-
現在の 生産能力	170万本	120万本	175万本	140万本	120万本	-	725万本
2015年の 生産能力	170万本	200万本	175万本	140万本	225万本	158万本	1068万本
最終の 生産能力	170万本	200万本	175万本	140万本	225万本	-	-

国際事業(中国2)

支店名	営業開始	支店名	営業開始
1 広州ヤクルト	2002年6月	15 温州支店	2009年8月
2 上海ヤクルト	2003年3月	16 瀋陽支店	2010年3月
3 深圳支店	2004年6月	17 大連支店	2010年4月
4 南京支店	2006年1月	18 福州支店	2010年4月
5 北京ヤクルト	2006年6月	19 アモイ支店	2010年4月
6 天津支店	2007年4月	20 長沙支店	2012年3月
7 蘇州支店	2007年6月	21 西安支店	2012年3月
8 杭州支店	2007年9月	22 成都支店	2013年1月
9 青島支店	2008年4月	23 重慶支店	2013年3月
10 寧波支店	2008年5月	24 鄭州支店	2013年3月
11 済南支店	2008年7月	25 合肥支店	2014年3月
12 湛江支店	2008年8月	26 長春支店	2014年3月
13 煙台支店	2009年5月	27 石家荘支店	2014年3月
14 武漢支店	2009年7月		



販売拠点:27

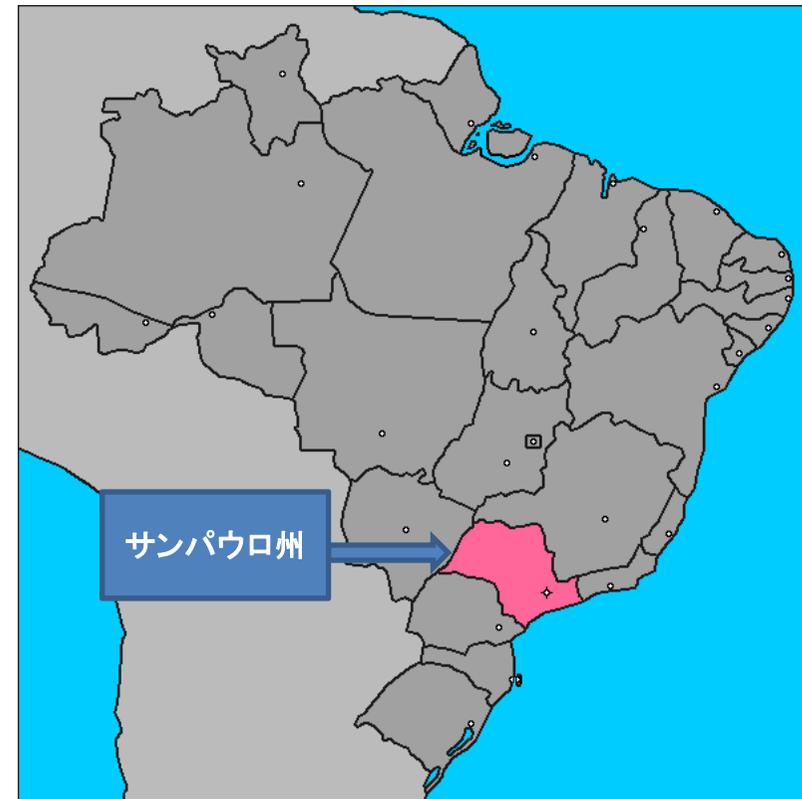
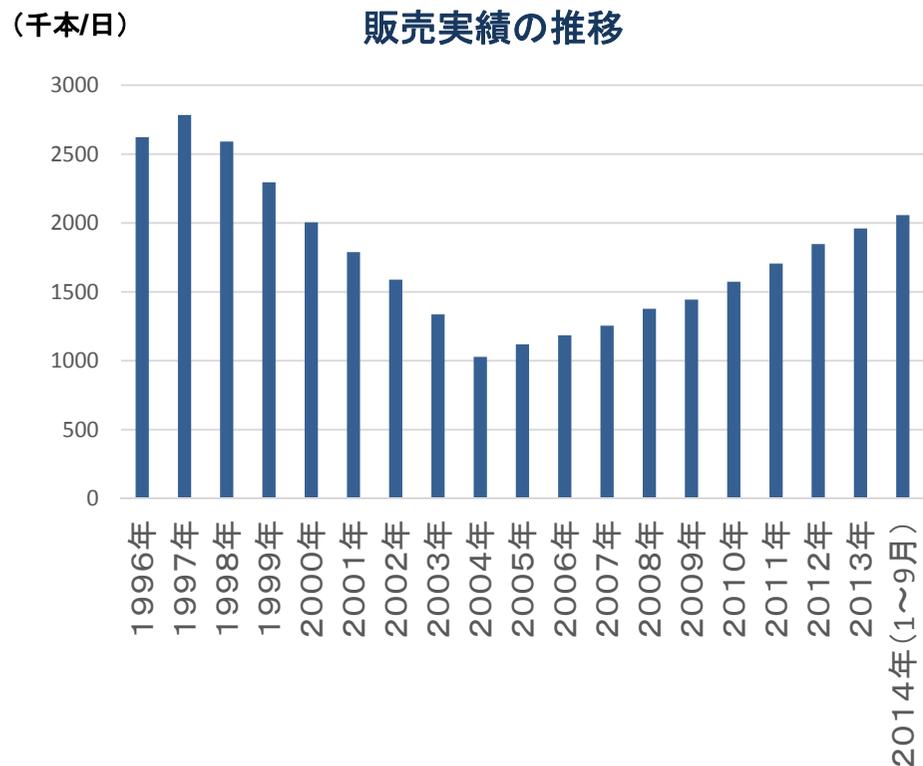
- ・現在、当初計画であった2015年までに27の販売拠点作りを、**1年前倒し**で事業が進捗している。
- ・27の営業拠点で、**5億6百万人の販売人口**をカバーしている。
- ・それぞれの営業拠点において、更なる**市場深耕**を推し進め、一方では更なる**市場拡大**も目指す。

国際事業(インドネシア)



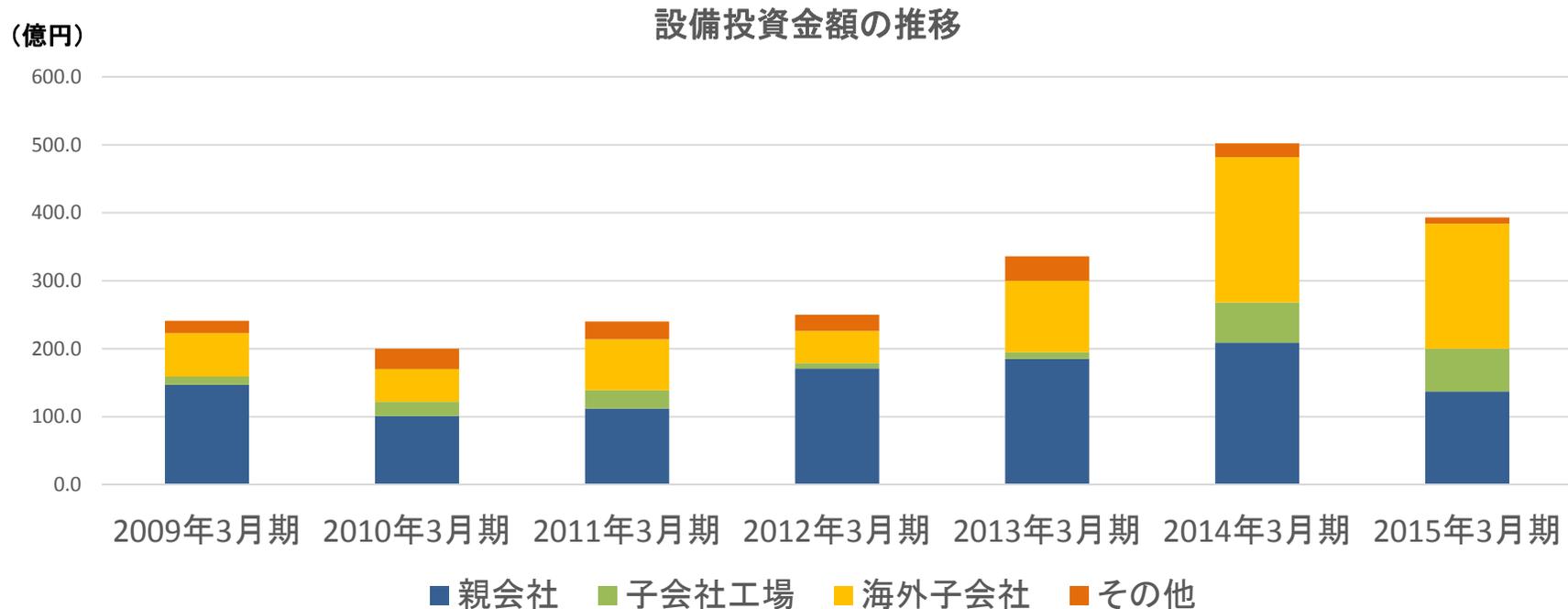
- ・2014年1月、スラバヤ市近郊にインドネシア第2の工場(モジョコルト工場)が稼動。
これにより、需給バランスが改善し、販売が加速。
- ・昼礼などを通じ、ヤクルトレディのコミュニケーション能力アップにより、宅配が事業を牽引している。

国際事業(ブラジル)



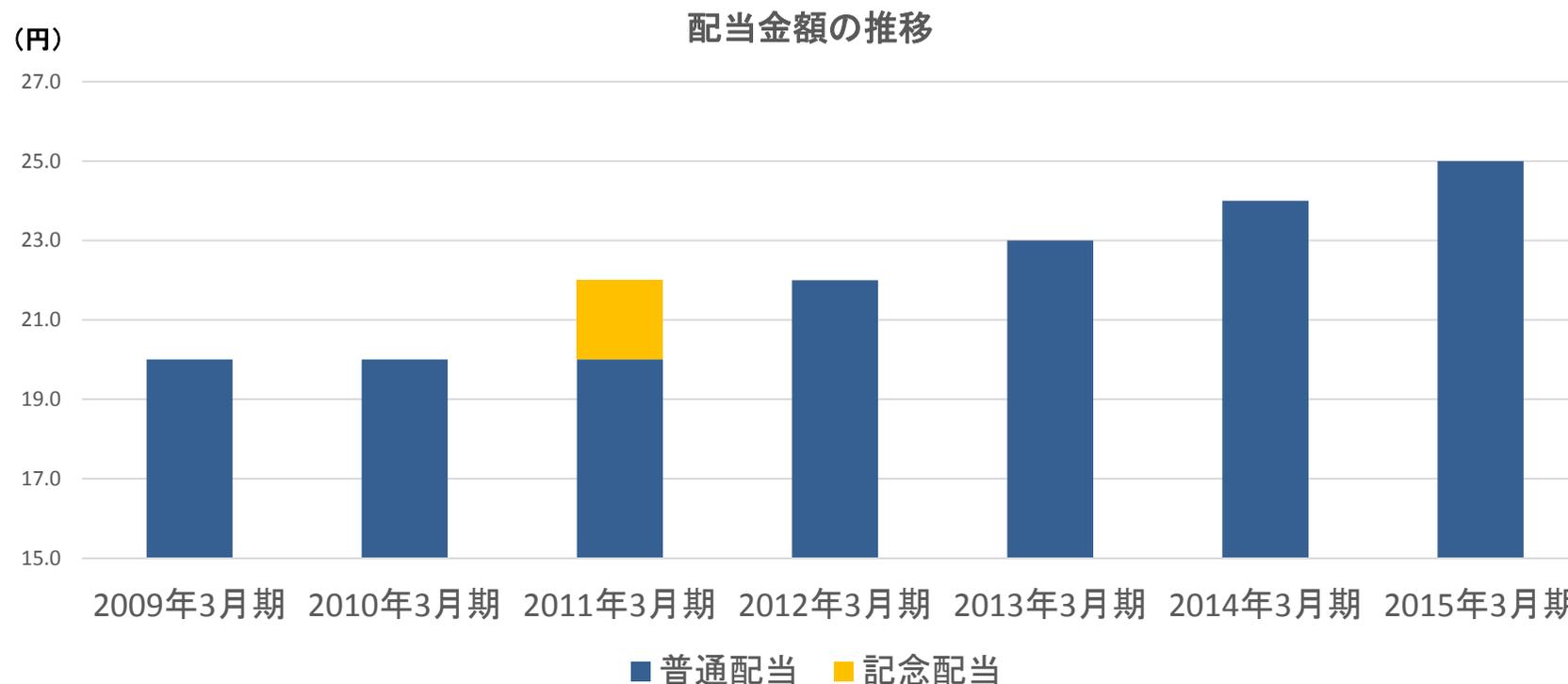
- ・1990年代のハイパーインフレにより経済が瓦解し、ヤクルト事業も低迷の時期が2004年まで続いた。
- ・2004年以降、**サンパウロを中心に事業の再構築**に取り掛かかり、業績が回復している。
- ・現在、サンパウロ州での販売数量は、**全体の約70%**を占めている。

投資について



・設備投資金額は、親会社での投資(工場再編、中央研究所の新研究棟の建設)や海外での工場建設(中国、インドネシア、アメリカ)などにより、近年は高い水準で推移した。

株主還元について



・配当の基本的な考え方

2009年3月期から、配当金額のベースを20円とし、そのうえで資金需要および財政状態ならびに業績などを総合的に勘案して配当金額を決定。

・上記方針に基づき、**安定的かつ持続的に増配**を続けている。

当資料に掲載されている計画、見通しなどのうち、過去の事実以外は将来に関する見通しであり、不確定な要因を含んでいます。実際の業績は、さまざまな要因によりこれら見通しとは異なる結果となる場合があることをご承知おきください。

当資料のいかなる情報も投資勧誘を目的としたものではありません。また、弊社は当資料の内容に関し、いかなる保証をするものでもありません。万一、この資料に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いません。